

4 研究のまとめ

(1) 研究の考察

ア 全体考察

視点Ⅰ 道徳上の問題とこれまでの自己を照らし合わせることで、自己を見つめることができたか。
視点Ⅱ 道徳上の問題を多面的・多角的に考えることで、自己の考えを広げ、深めることができたか。
視点Ⅲ 主題に関わる自己の(人間としての)生き方について振り返ることで、これからの自己を考えることができたか。

(7) 視点Ⅰについて①

平成 27 年度は道徳アンケート、ワークシート、振り返りシートにおける児童生徒の記述の変容を基に、ねらいとする道徳的価値に照らして、どれだけ「自己を見つめることができたか」について見取りました。

まず、道徳アンケートでは、授業でねらいとする内容項目の質問において、以下のような回答が得られました(表1)。

表1 道徳アンケートにおける児童生徒の記述

n=172

対 象 内容項目	質 問 項 目	自己判断と 根拠あり	自己判断の み根拠なし	無回答
小学5年 C-(12)	なぜ法やきまりがあるのかを理解し、それを大切にし、守ろうとしている。	63%	33%	4%
小学5年 B-(11)	自分の考えや意見を相手に伝えたり、自分とは異なる考えや意見を大切にしたりしている。	68%	32%	0%
小学6年 D-(22)	誰にでも心の弱さがあることが分かり、それに負けずに強く生きていこうとしている。	89%	11%	0%
中学1年 A-(1)	正しいことと間違っていることを自分で考えて判断し、責任をもって行動している。	80%	20%	0%
中学1年 B-(8)	友達と互いに理解し、励まし合い、高め合いながらよりよい関係を作ろうとしている。	79%	21%	0%
中学3年 D-(22)	誰にでも心の弱さがあることが分かり、それに負けずに強く生きていこうとしている。	91%	9%	0%
全 体 の 割 合		78%	21%	1%

「なぜ法やきまりがあるのかを理解し、それを大切にし、守ろうとしている」という質問項目に対して、「法やきまりがないとみんな自分勝手にしてしまうから」「守らない人がいたら嫌がる人や悲しむ人がいるから」のような記述を「これまでの経験や体験を基に根拠を述べて自己判断をしている」と判断しました。それに対し、「少し思っている」「あまりできていない」など根拠がない記述や、記述がないものを「自己判断のみ根拠なし」と判断しました。全体的には、事前の道徳アンケートでは78%の児童生徒が、根拠を基に自己判断をすることができていました(図1)。

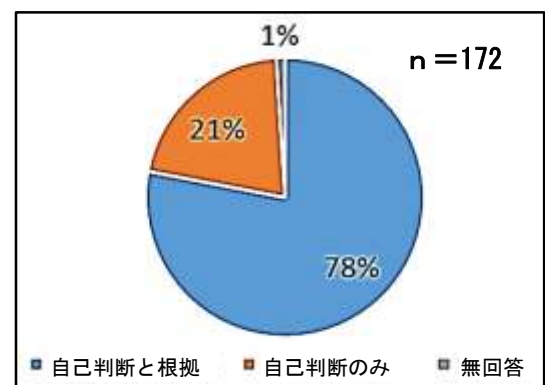


図1 質問項目に対する理由の記述

次に、授業中に記入したワークシートでは、ねらいとする道徳的価値に関わる発問について、以下のような回答が得られました(次頁表2)。

表2 ワークシートにおける児童生徒の記述

n=172

対 象 内容項目	ねらいとする道徳的価値に関わる発問	自己の考え と根拠あり	自己の考え のみ
小学5年 C-(12)	校内で騒ぐ人をなくすために、罰をつくるのとつukらないのとではどちらがよいと思いますか。	90%	10%
小学5年 B-(11)	ミリエル司教の姿からどんな心が大切だと思いますか。	86%	14%
小学6年 D-(22)	全島避難をしている口永良部島の人々は、今どんな気持ちでいるだろうか。	100%	0%
中学1年 A-(1)	練習試合の集合時間に来ていない友達がいたとき、あなたの考えはA～Dの誰に近いですか。	94%	6%
中学1年 B-(8)	あなたが、親友からこのメールをもらったら、回しますか、回しませんか。それはなぜですか。	86%	14%
中学3年 D-(22)	自分が“私”の立場だったら、四十銭渡すおばあさんに、正直に間違いを言えますか。	100%	0%
全 体 の 割 合		92%	8%

「校内で騒ぐ人をなくすために、罰をつくるのとつukらないのとではどちらがよいと思いますか」という発問に対して、「罰をつくったほうが守れない人が気に掛けるようになる」「罰をつくらなくて自分で意識すればよい」などの記述を「自己の考えと根拠あり」としました。自分の考えは書いているがその根拠が書けていないものを「自分の考えのみ」としました。全体的に見ると、92%の児童生徒が、明確な根拠を基に自己の考えを記述することができていました(図2)。



図2 発問に対する理由の記述

授業後に記入させた振り返りシートでは小学校、中学校の児童生徒を合わせて、以下のような回答が得られました(表3)。

表3 振り返りシートにおける児童生徒の記述

n=166

	質 問 項 目	よくできた	だいたいできた	あまり できなかった	全く できなかった
1	【自己投影】 資料中の問題を自分のこととして考えることができましたか。	46%	42%	11%	1%
2	【自己決定】 問題に対して自分はどのように行動するか書く(選ぶ)ことができましたか。	96%			4%
3	【自己決定の理由】 自分がなぜそのように行動するのか、理由を考えて書くことができましたか。	58%	35%	5%	2%

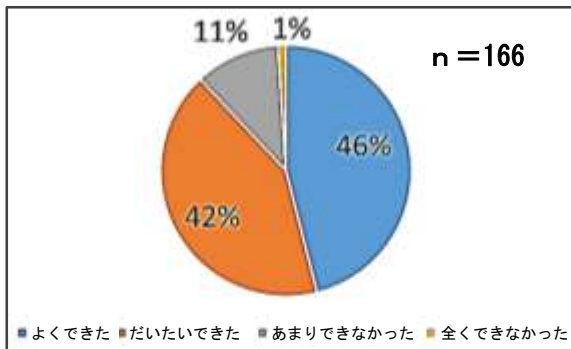


図3 自己投影について

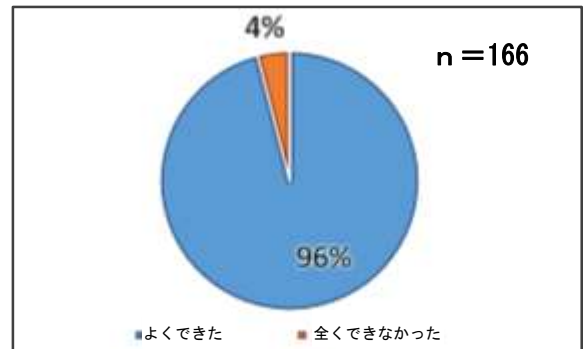


図4 自己決定について

この結果、資料を提示し、ねらいとする道徳的価値に関わる問題を把握させた上で、それに関わる発問を投げ掛けることで、88%の児童生徒が「よくできた」「だいたいできた」と答えており、資料中の問題を自分のこととして考えることができていたといえます(図3)。また、96%の児童生徒が、これまでの自己の経験や体験、その時の感じ方や考え方に照らし合わせて、どのように判断したり行動したりするのか記述したり選択したりすることができていたといえます(図4)。

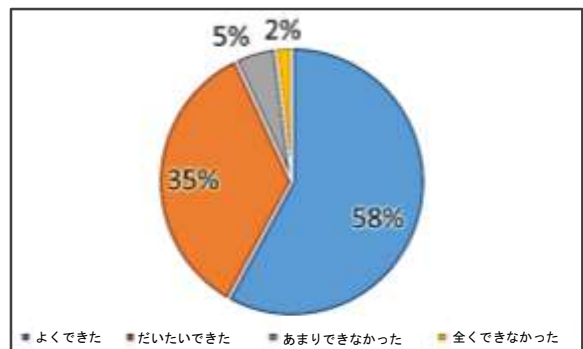


図5 自己決定の理由について

さらに、自己決定の理由の記述について93%の児童生徒が「よくできた」「だいたいできた」と答えており、自己の判断や行動の理由まで考えることができていたといえます(図5)。道徳アンケートでは、明確な根拠を基に自己判断をしている児童生徒は78%でしたが、授業中でのワークシートの記述では、92%の児童生徒が自己判断とその理由まで記述することができていました。さらに、授業の振り返りシートの結果を見ると、96%の児童生徒が「自己の考えや行動を書くことができた」、93%の児童生徒が「根拠となる理由を書くことができた」と答えていました。

このことから、授業において資料中の問題を自分の問題として把握させ、その問題に対する自分の判断とその理由について書く活動①を設定したことで、児童生徒はこれまでの自分の経験やその時の感じ方、考え方と照らし合わせながら道徳的価値を捉え、自己理解を深めることができていたと考えます。

(イ) 視点Ⅰについて②

平成28年度は5・11月の道徳アンケート、ワークシート、振り返りシートにおける児童生徒の記述の変容を基に、ねらいとする道徳的価値に照らして、どれだけ「自己を見つめることができたか」について見取りました。まず、5月と11月の道徳アンケートでは、授業でねらいとする内容項目の質問において、以下のような回答が得られました(表4)。

表4 道徳アンケートにおける児童生徒の記述

*上段は5月、下段は11月の割合 n=179

対象 内容項目	質問項目	自己判断と 根拠あり	自己判断の み根拠なし	無回答
小学2年 C-(12)	はたらくことの大切さやよろこびを知り、みんなのためにすすんではたらいっている。	35%	65%	0%
		16%	81%	3%

小学3年 D－(18)	いのちは一番大事なものであることがわかり、 いつも大切にしている。	74%	26%	0 %
		74%	26%	0 %
小学5年 A－(2)	うそをついたりごまかしたりしないで、正直に 明るい心で生活している。	100%	0 %	0 %
		92%	8 %	0 %
中学1年 B－(8)	友達と互いに理解し、励まし合い、高め合いな がらよりよい関係を作ろうとしている。	97%	3 %	0 %
		94%	6 %	0 %
中学2年 A－(4)	勉強や運動、仕事など自分でやろうと決めた目 標に向かってねばり強く、くじけずに努力して いる。	14%	86%	0 %
		67%	33%	0 %
中学2年 C－(15)	先生や学校にいる人のことを大切に思い、より よい学校生活をつくるために、自分にできるこ とをしている。	36%	64%	0 %
		91%	9 %	0 %
全 体 の 割 合		5月 59%	41%	0 %
		11月 72%	17%	1 %

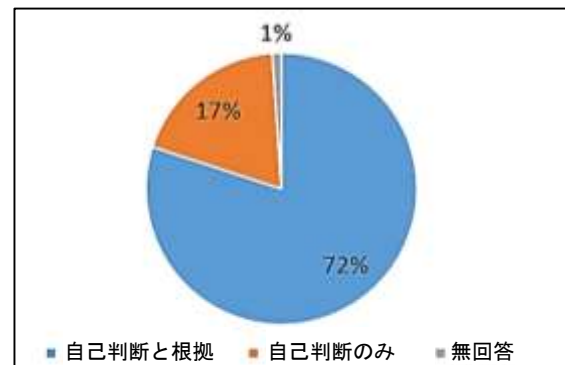
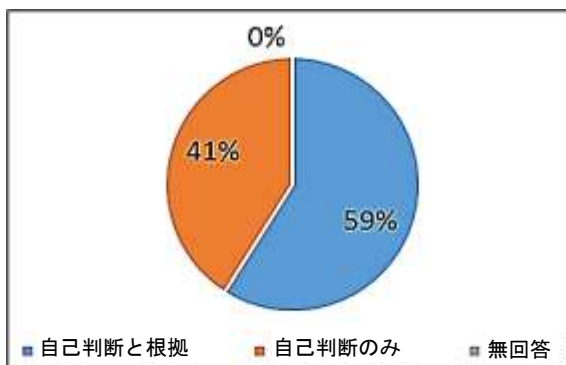


図6 質問項目に対する理由の記述

全体的な傾向を見ると、5月は59%の児童生徒が質問項目に対して、自己判断と根拠の記述をすることができていました。11月は72%の児童生徒が自己判断と根拠の記述をすることができており、全体的に根拠に基づいて自己判断をすることができるようになったと考えることができます。つまり、普段の自己の言動を考えながら、自己判断をする児童生徒が増加したといえます。しかしながら、質問項目によっては、割合の変化がなかったり、11月のほうが割合が減少していたりしたものもありました。これは、自己判断の根拠を見つける視点が育ったことで、これまでよりも厳しい目で自己の言動を評価するようになったためであると考えます（図6）。

授業後に記入させた振り返りシートでは、小学校、中学校の児童生徒を合わせて、以下のような回答が得られました（表5）。

表5 振り返りシートにおける児童生徒の記述

n=180

	質 問 項 目	よくできた	だいたいできた	あまり できなかった	全く できなかった
1	【自己投影】 資料中の問題を自分のこととして考える ことができましたか。	43%	51%	6%	0%

2	【自己決定】 問題に対して自分はどのように行動するか書く(選ぶ)ことができましたか。	92%			8%
3	【自己決定の理由】 自分がなぜそのように行動するのか、理由を考えて書くことができましたか。	46%	48%	5%	1%

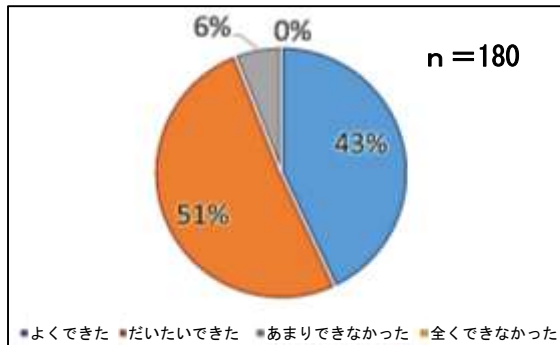


図7 自己投影について

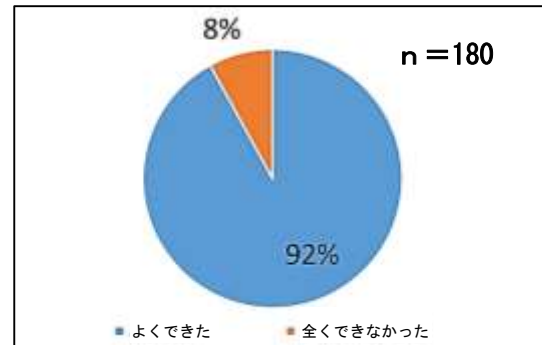


図8 自己決定について

この結果、資料を提示し、ねらいとする道徳的価値に関わる問題を把握させた上で、それに関わる発問を投げ掛けることで、94%の児童生徒が「よくできた」「だいたいできた」と答えており、資料中の問題を自分のこととして考えることができていたといえます(図7)。また、92%の児童生徒が、これまでの自己の経験や体験、その時の感じ方や考え方に照らし合わせて、どのように判断したり行動したりするのか記述したり選択したりすることができていたといえます(図8)。さらに、自己決定の理由の記述について94%の児童生徒が「よくできた」「だいたいできた」と答えており、自己の判断や行動の理由まで考えることができていたといえます(図9)。

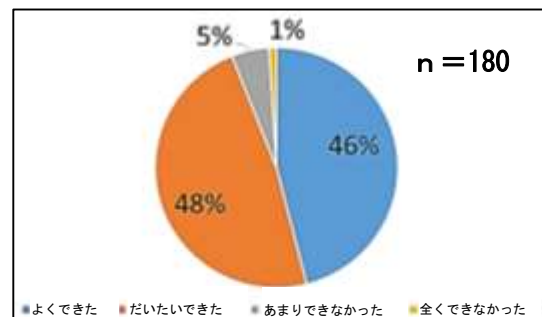


図9 自己決定の理由について

道徳アンケートでは、明確な根拠を基に自己判断をしている児童生徒は59%から72%に増加し、授業の振り返りシートの結果では、92%の児童生徒が「自己の考えや行動を書くことができた」、94%の児童生徒が「根拠となる理由を書くことができた」と答えていました。この結果、問題解決的な学習を通して、児童生徒が自己を見つめた上で判断基準をもてるようになってきたと考えられます。

(ウ) 視点Ⅱについて①

平成27年度は道徳アンケート、ワークシート、振り返りシートにおける児童生徒の記述の変容を基に、「道徳的価値に関わる問題を多面的・多角的に考えることができたか」について見取りました。

「多面的に考える」については、「道徳上の問題を多様な側面から見る」と捉えました。一つは、主人公と他の人、自分と相手、個人と全体など立場を変えて考えさせました。もう一つは、思いやりと規則尊重、友情と勇気など異なる道徳的価値の側面から考えさせました。「多角的に考える」については「道徳上の問題に対し、自分を起点として多様な角度に広げて見る」と捉えました。これは、問題場面で自分がどのような気持ちになるのか、それはなぜか、自分がどのような行動をとるのか、その結果どうなるのかなど複数の選択肢について考えさせました。以上の2通りの考え方を意識して授業を実践し、考察しました。

小学校5年生「気持ちよくすごすために」の実践では、ネームプレートとクロス表を用いて授業を行いました。まず、校内での過ごし方に関わる資料を電子黒板で提示し、「校内で騒ぐ人をなくすために罰をつくるのとつukらないのとではどちらがよいと思うか」という問題について自己の判断とその理由をワークシートに記述させました。その後、ネームプレートを用いて「つくる」を青、「つukらない」を白で提示させました。さらに、自分の立場(マナーを守れる人)と相手の立場(マナーを守れない人)の2つの立場における気持ちを考えさせ、自己の判断で互いがどんな気持ちになるのかをワークシートのクロス表上に記述させました。また、黒板にもクロス表を提示し、ネームプレートを貼らせることで全体的な傾向を可視化させました(資料1)。

ペアでの話し合いに入る前に以下の点を確認しました。

- ・ネームプレートの色が異なる相手から交流する。(資料1の赤○)
- ・ネームプレートの色が同じでもクロス表に貼っている位置が遠い相手から交流する。(資料1の黄○)
- ・交流した相手の位置と考えをワークシートにメモしておく。



資料1 可視化の様子

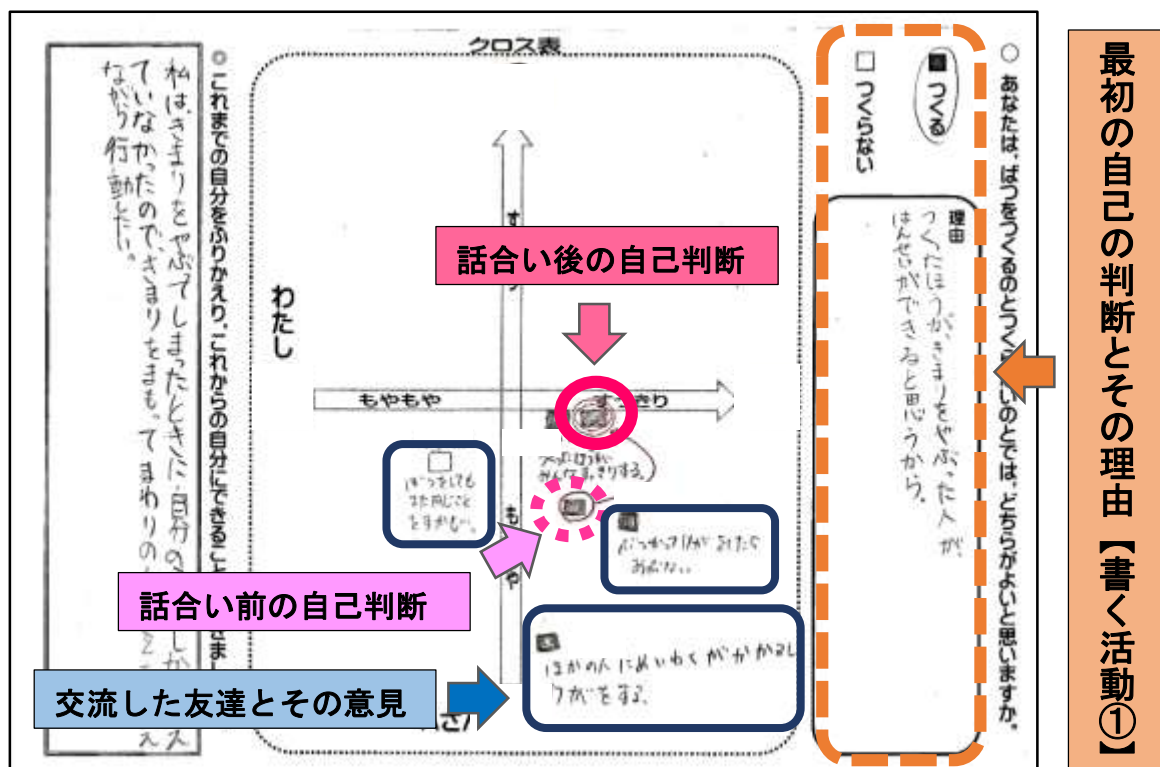


図10 児童のワークシートの記述

まず、ペアでの話し合いでは、ネームプレートの色や位置を確認しながら交流の様子がみられ(資料2)、上に示したワークシートのように、交流した相手の位置や意見をメモすることができていました(図10)。

ワークシートを見ると、全員の児童が友達の考えを聞き、70%の児童が友達の考えを自分のワークシートに記述することができていました。その後、全体での話し合いにおいて以下のような意見がありました(次頁表6)。



資料2 児童の交流の様子

表6 全体での話し合いにおける児童の意見

○多面的・多角的な考えに基づいた意見

- ・罰をつくることでマナーを守れない人は気持ちを改めることができる。
- ・他の人たちも迷惑しているから罰が必要。
- ・マナーを守れない人にとっては罰があるのは嫌だと思う。
- ・罰を受けている人を見るとその人だけでなく自分も嫌な気持ちになる。
- ・罰が嫌だから騒がないというのは本当に騒いだらいけないという気持ちになっていない。
- ・罰を受けないためではなくみんなが気持ちよく過ごすためにマナーを守る。
- ・罰をつくることで騒ぐ人はいなくなる。騒ぐ人がいなくなればすっきりとする。
- ・大人になって守れないといけないので、罰をつかって今のうちに守れるようにする。
- ・このままだと自分や他の人がけがをする。
- ・罰はマナーを守れない人を責めている気がする。自分で意識すれば騒がなくなる。
- ・罰をつくってもまた同じことが起こる。
- ・罰がなくてもマナーを守れるようになるのがよい。

児童には、マナーを守る人という立場に立って考えさせましたが、クロス表を用いたことでマナーを守れない人の気持ちも考えさせることができ、それ以外の周りの人の気持ちまで考えて発言することができていました。また、罰をつくった場合とつくらなかった場合の両方を考えてどのようなことになるか予想しながら意見を述べる児童もいました。このことから、自己の考えを基にペアや全体での話し合いを行うことで、児童は道徳上の問題を多面的・多角的に考えることができていたといえます。

中学校1年生「集合時間は午前8時」の実践では、ウェビングを用いた授業を行いました。「対外試合に行くための待ち合わせの時間に遅れた友だちを駅で待つか待たないか」という問題について、自己の判断とその理由をウェビングを用いたワークシートに記入させました。あらかじめ用意した4つの選択肢(先に行く、補欠が残る、部長が残る、待つ人を決める)の中から選ばせ、自己の判断をネームプレートで表示させ、全体的な傾向を可視化しました(資料3)。

ペアでの話し合いに入る前に以下の点を確認しました。

- ・違う立場だけではなく、同じ立場の人にも理由を聞く。
- ・理由を聞いたら、ワークシートのウェビングに書き加える。
- ・疑問に思ったことをお互いに質問する。



資料3 可視化の様子

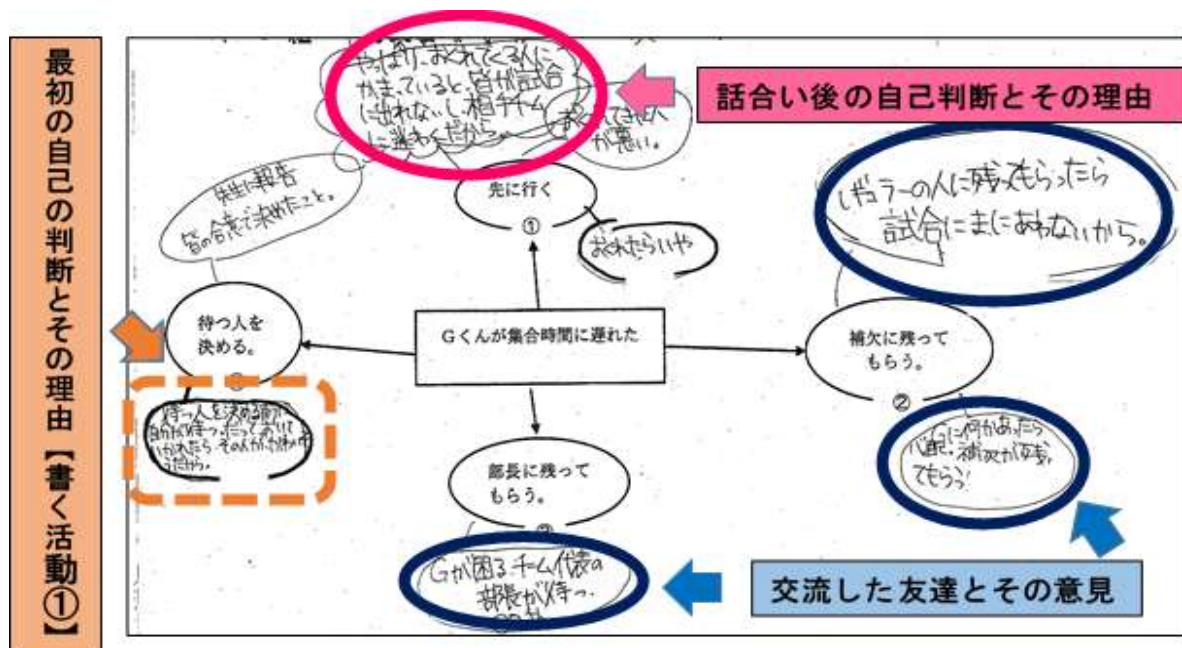


図11 生徒のワークシートの記述

ペアでの話し合い後には、94%の生徒が自分とは異なる立場や同じ立場の生徒の判断の理由をウェブに記述することができていました(前頁図11)。

その後の全体の話し合いでは、以下のような意見がありました(表7)。

表7 全体での話し合いにおける生徒の意見

○多面的・多角的な考えに基づいた意見	
・	先に行くのはかわいそうなので、みんなの合意で待つ人を決めたらいいと思う。
・	遅れた人が試合に出るのは相手に失礼だと思うので、先に行く。
・	補欠もチームの大事なメンバーだからレギュラーのGさんを待たずに先に行く。
・	遅れた人を待つとその人が試合に出られなくなるし、相手チームに迷惑を掛けるから先に行く。
・	大切な試合だから遅れることはできないが、Gさんも心配なので、試合に出ない人が残る方がよい。
・	試合に出られなくなったら、Gさんも自分のせいだと気にすると思うので、先に行く。

全体での話し合い後に、最初に選んだ立場から違う立場に変わった生徒は21%、立場は変わらなかったが、理由が変容したり増加したりした生徒は32%でした。内容としては、自分のことだけ考えて判断の理由を書いていた生徒が相手のことを考えた理由を付け加えたり、判断した後の結果を考えて理由を書き加えたりしていました。以上のことから、ウェブを用いてペアや全体の話し合いを行ったことが問題を多面的・多角的に考えることにつながったと考えます。

授業後に記入させた振り返りシートでは小学校、中学校の児童生徒を合わせて、以下のような回答が得られました(表8)。

表8 振り返りシートにおける児童生徒の記述

n=166

	質 問 項 目	とても そう思う	少し そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
4	【伝え・聞く】 自分の考えを友達に伝え、友達の考えを聞くことができましたか。	64%	31%	4%	1%
5	【他者理解】 話し合いをして、友達の考えとその理由を理解することができましたか。	57%	36%	6%	1%
6	【考えの強化・変化】 友達と話し合ったことで自分の考えが増えたり、強くなったり、変わったりしたと思いますか。	56%	36%	5%	3%

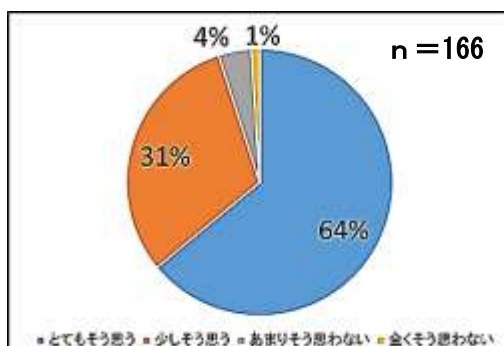


図11 伝え・聞くについて

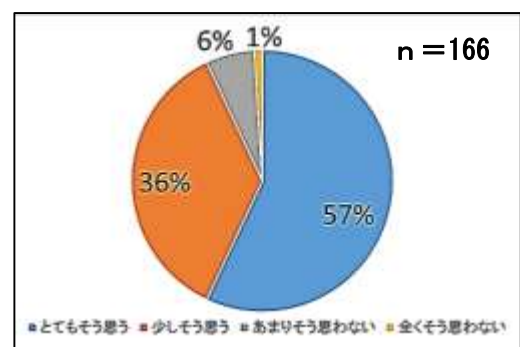


図12 他者理解について

この結果、95%の児童生徒が話し合いにおいて自分の考えを友達に伝え、友達の考えを聞くことができていたといえます(前頁図 11)。また、93%の児童生徒が友達の考えとその理由を理解することができており、自分とは異なる考えでも受け止めることができていたと考えられます(前頁図 12)。さらに、92%の児童生徒が友達と話し合ったことで、自分の考えを強化させたり変容させたりしているといえます(図 13)。このことから、自分の最初の考えを基に話し合いを行うことで、多くの児童生徒が、友達の考えを受け止めるだけでなく、自分の考えに友達の考えも取り入れた上で最終的な判断をすることができていたと考えます。授業中に用いたワークシートや振り返りシートの記述から、書く活動①で書いた自分の考えを基に、ペアやグループ、全体での話し合いを行ったことで、児童生徒は道徳上の問題を一面的に捉えるのではなく、多面的に捉えることができ、様々な選択肢や予想される結果を踏まえて総合的に考えることができていたといえます。

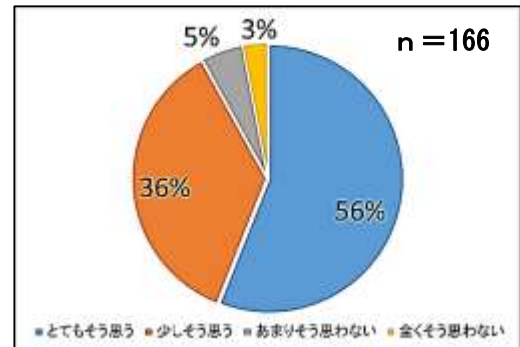


図 13 考えの強化・変容について

(I) 視点Ⅱについて②

平成28年度は5・11月の道徳アンケート、ワークシート、振り返りシートにおける児童生徒の記述の変容を基に、「自己の考えを広げ、深めることができたか」について見取りました。小学校3年生「命のかぎり生きる」の実践では、グループと全体での話し合いを取り入れ、その前後に書く活動を位置付けた授業を行いました。まず、「今より『せいっぱい生きる』ために自分にできることを見つけよう」というめあてを示しました。話し合いでは、資料中の人物の生き方について考えるを通して、「せいっぱい生きる」ために自分にできることを見つけさせるように仕組みました。以下は2人の児童のワークシートの記述内容の変化をまとめたものです(図14)。

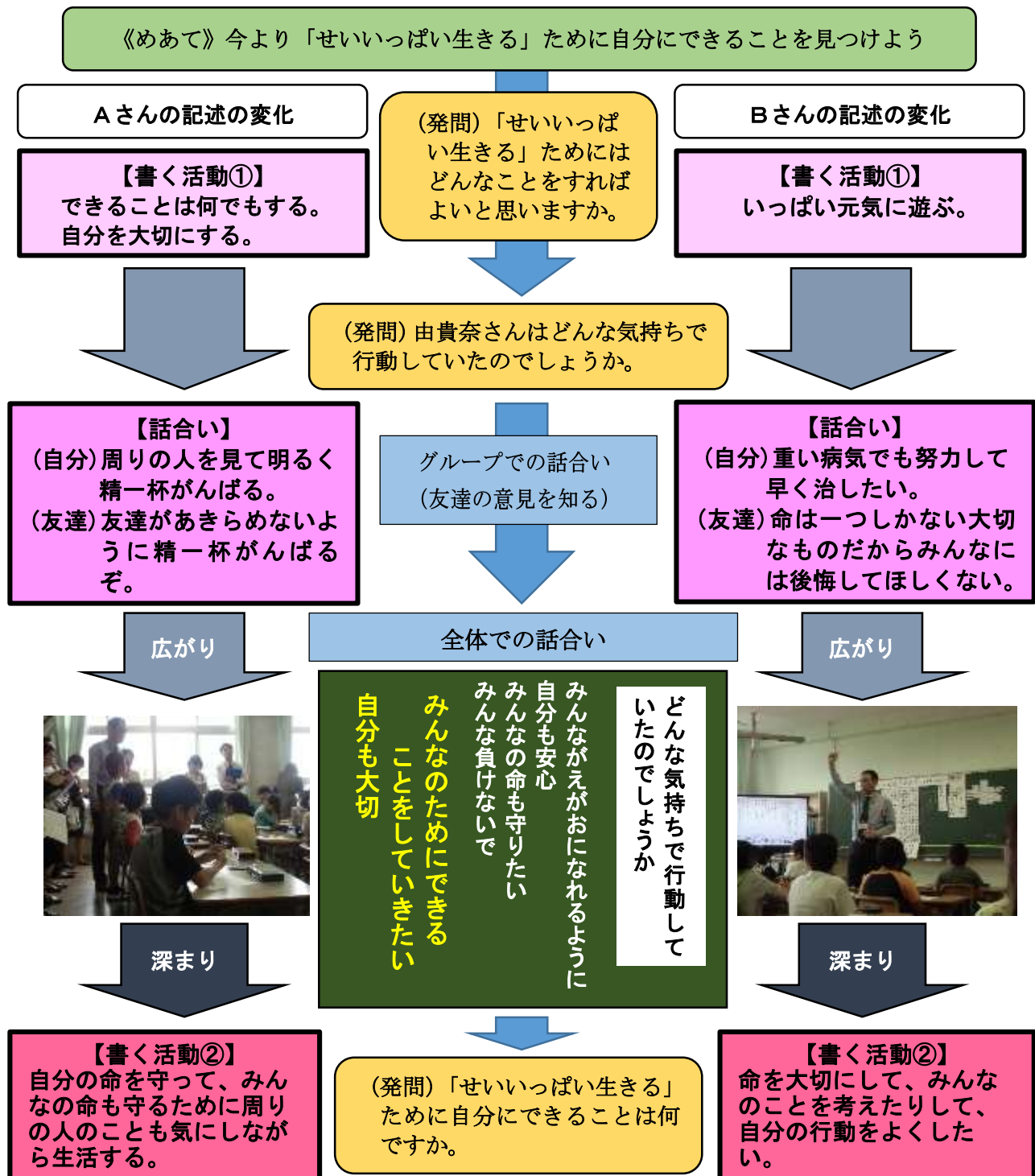


図14 グループと全体での話し合いを通して、考えを広げ、深めた例(小学校)

中学校2年生「クラスの痛み（朗読劇）」の実践では、「クラスの問題にどう向き合うか考えよう」というめあてを示し、ホワイトボードを用いた話し合いを取り入れ、その前後に書く活動を位置付けた授業を行いました。傍観者の立場から、いじめの加害者の発言に対して、どのような台詞を言うか考えさせる展開を仕組みました。具体的には、クラスの痛み（いじめ）の問題解決に向けた自己の考えを班で紹介させ、ホワイトボードに班で1つの台詞にしました。そのホワイトボードを黒板に貼り、出た意見を分類しました。最後に、自分だったら、台詞を加害者に言うか、言わないかを判断させ、その場合の具体的な台詞や行動を書かせました。以下は2人の生徒のワークシートの記述内容の変化をまとめたものです(図15)。

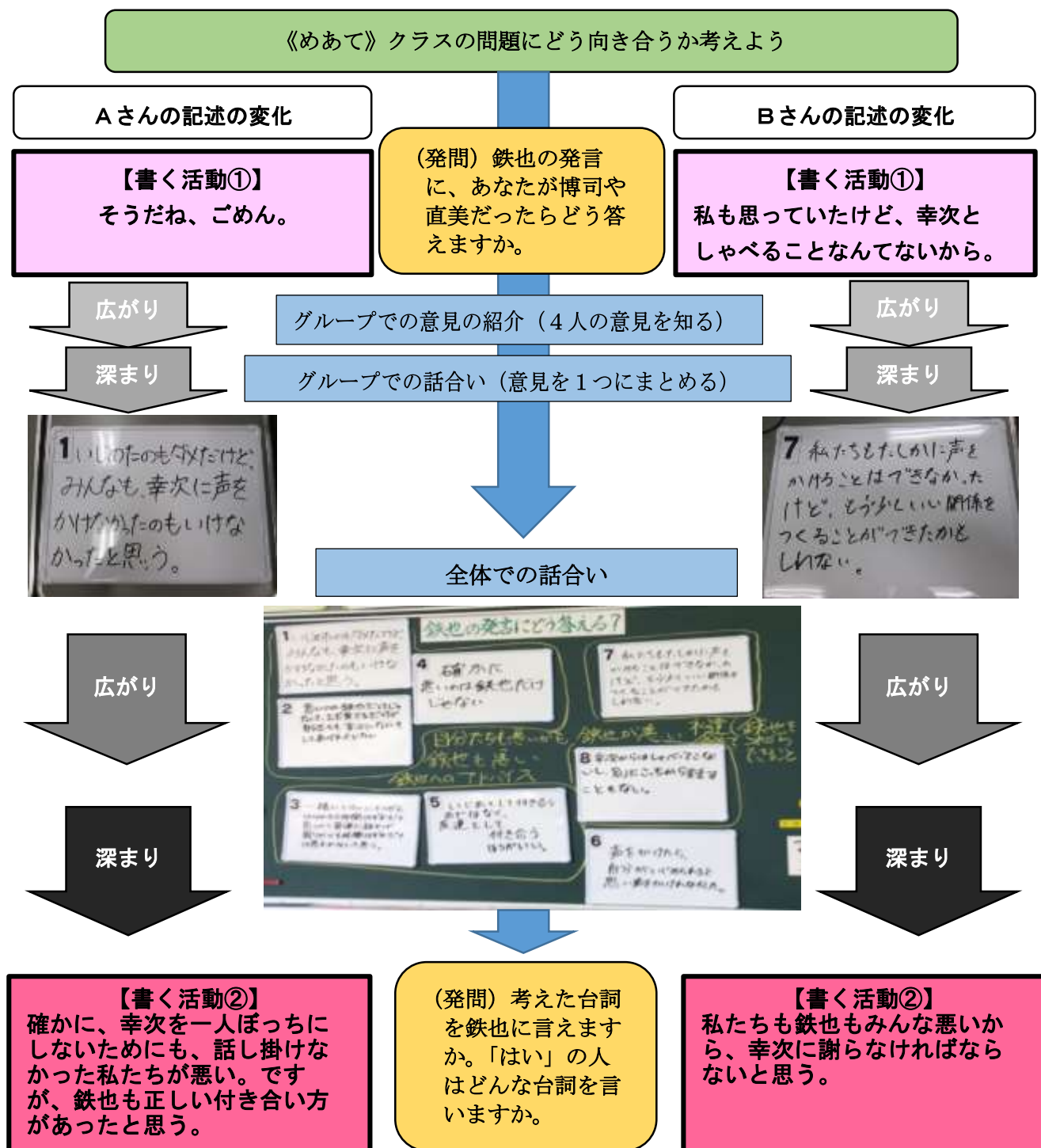


図15 グループと全体での話し合いを通して、考えを広げ、深めた例(中学校)

小学校3年生の実践では、「精一杯生きる」ことについて、「自己を見つめる」段階では、自分のことのみを記述していた児童が、「これからの自己を考える」段階では、自分だけでなくみんなの命も大切にしながら行動することを記述しており、自分のことから周りの友達へ目を向けていることが分かります。中学校2年生の実践では、クラスのいじめ問題について、「自己を見つめる」段階では、第3者の立場でしか問題に向き合っていなかった生徒が、「これからの自己を考える」段階では、自分の行動を主体的に考えている記述をしており、問題を自分のこととして受け止め、その後の行動を考えようとしていることが分かります。つまり、グループや全体での話し合い活動が、児童生徒の考えを広げ、深めることにつながっているといえます。

授業後に記入させた振り返りシートでは小学校、中学校の児童生徒を合わせて、以下のような回答が得られました(表9)。

表9 振り返りシートにおける児童生徒の記述

n=180

	質 問 項 目	とても そう思う	少し そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
4	【聞く】 友達の考えをしっかりと聞くことができましたか。	73%	24%	3%	0%
5	【他者理解】 友達の考えを聞いて、いろいろな考えがあることに気付くことができましたか。	61%	34%	5%	0%
6	【自己の考えの見直し】 友達の考えを聞いて、自分の考えを見つめ直すことができましたか。	50%	42%	8%	0%

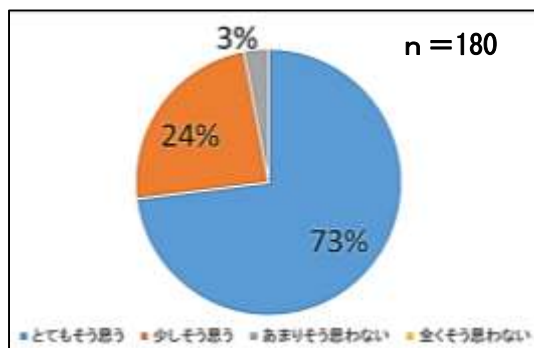


図16 伝え・聞くについて

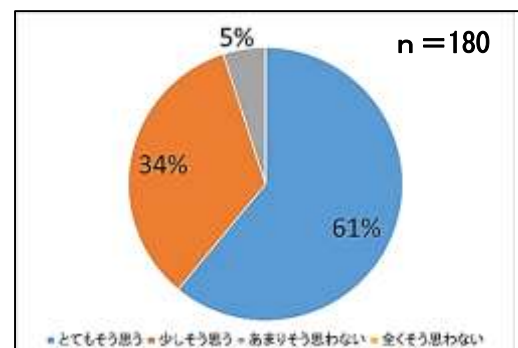


図17 他者理解について

この結果、97%の児童生徒が話し合いにおいて、友達の考えを受け止めることができていたといえます(図16)。また、95%の児童生徒が友達の考えを聞いて、自分とは違ういろいろな考えがあることに気付くことができていたといえます(図17)。さらに、92%の児童生徒が友達の考えを聞いた上で、自己の考えを見つめ直しているといえます(図18)。このことから、自己の考えを基にペアやグループで話し合いを行うことが、他者の考えを受け止め、自己の考えを広げることにつながっていたと考えられます。さらに、全体での話し合いで、多様な考えを出し合った後に、互いの考えの根拠を問い返していくことが自己の考えを深めることにつながっていたと考えます。

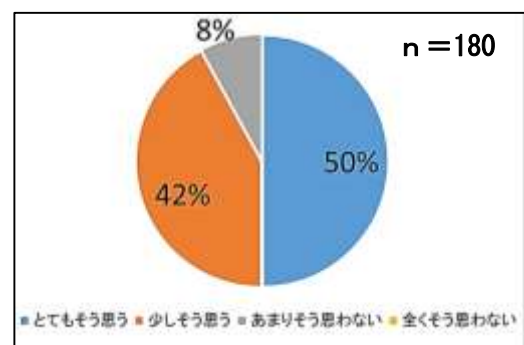


図18 自己の考えの見直しについて

(オ) 視点Ⅲについて①

平成27年度は道徳アンケート、ワークシート、振り返りシートにおける児童生徒の記述の変容を基に、「これからの自己について考えることができたか」について見取りました。まず、事前に行った道徳アンケートでは、授業でねらいとする内容項目の質問において、以下のような回答が得られました(表10)。

表10 事前調査における児童生徒の記述

n=171

対 象 内容項目	質 問 項 目	よく できている	だいたい できている	あまりでき ていない	全くでき ていない
小学5年 C-(12)	なぜ法やきまりがあるのかを理解し、それを大切にし、守ろうとしている。	59%	31%	3%	7%
小学5年 B-(11)	自分の考えや意見を相手に伝えたり、自分とは異なる考えや意見を大切にしたりしている。	29%	43%	25%	4%
小学6年 D-(22)	誰にでも心の弱さがあることが分かり、それに負けずに強く生きていこうとしている。	44%	37%	11%	7%
中学1年 A-(1)	正しいことと間違っていることを自分で考えて判断し、責任をもって行動している。	20%	63%	17%	0%
中学1年 B-(8)	友達と互いに理解し、励まし合い、高め合いながらよりよい関係を作ろうとしている。	52%	22%	3%	3%
中学3年 D-(22)	誰にでも心の弱さがあることが分かり、それに負けずに強く生きていこうとしている。	48%	43%	4%	4%
全 体 の 割 合		41%	44%	11%	4%

事前調査を全体的に見ると、ねらいとする道徳的価値に対して普段の生活の中で、85%の児童生徒が「よくできている」「だいたいできている」という意識をもっているといえます(図19)。授業においては、ペアやグループ、全体での話し合いの後に、話し合いを踏まえた自己の考え、ねらいとする道徳的価値について考えたことを記述する、書く活動②を行いました。

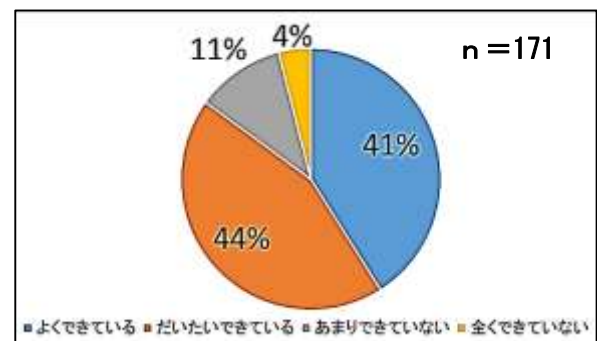


図19 道徳的価値に対する自己評価

①

小学5年、6年、中学1年における書く活動②の記述内容を以下の視点で分類し、次のような結果が得られました。

- ① ねらいとする道徳的価値について学んだことを書いている。
- ② ねらいとする道徳的価値に照らしたこれまでの自分について書いている。
- ③ ねらいとする道徳的価値に照らしたこれからの自分について書いている。

まず、児童生徒の記述で、「周りの人のことや相手の気持ちになって考えればルールを守る人が増えると思う」などねらいとする道徳的価値について学んだことを書いている児童生徒は65%でした(図20)。友達との話し合いを通して、改めて道徳的価値を捉え直し、学んだことを基にした自分の考えを書くことができていました。

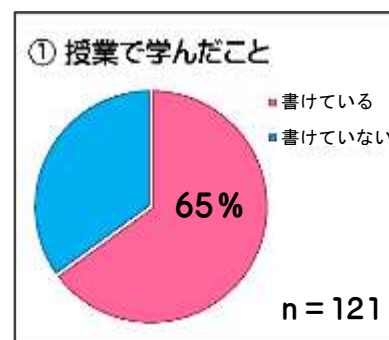
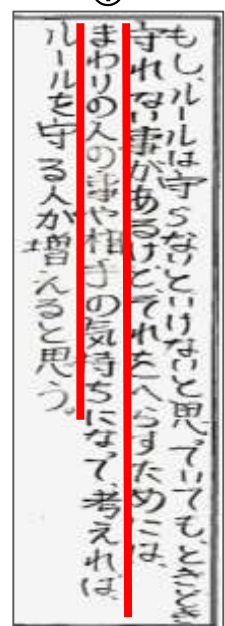


図20 学んだことに関わる児童の記述について



次に、「これまで自分はマナーを守ることが大切だと思っていても、自分がマナーを守れなかった」などねらいとする道徳的価値に照らしたこれまでの自分について書けている児童生徒は、55%でした。

最後に、「ごみ拾いをするなど自分でもできそうなことをこれから進んでしていきたい」などねらいとする道徳的価値に照らしたこれからの自分について書けている児童生徒は83%でした(図21)。

この結果から、話し合いの後に、学んだこと、これまでの自分、これからの自分という書く視点を明確にした書く活動②を設定することは、ねらいとする道徳的価値について学んだことを確かめることができ、それを自分に照らし合わせて考えることができていたと考えます。

授業後に記入させた振り返りシートでは小学校、中学校の児童生徒を合わせて、以下のような回答が得られました(表11)。

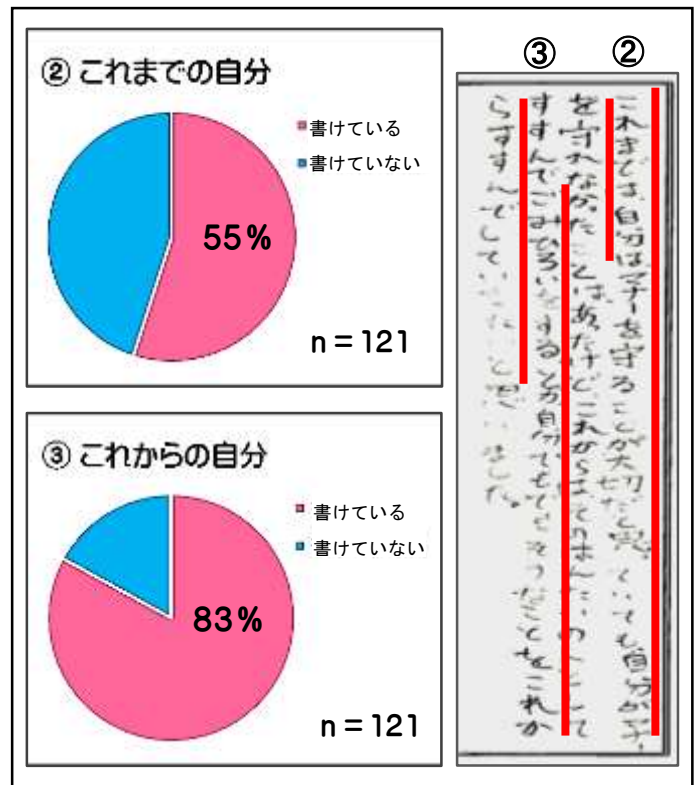


図21 これまでとこれからの自分に関わる児童の記述について

表11 振り返りシートにおける児童生徒の記述

n=168

	質 問 項 目	とても そう思う	少し そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない
7	【学んだこと】 道徳の授業で学んだことや心に残ったことはありましたか。	62%	30%	5%	3%
8	【自己の振り返り】 道徳の授業でこれまでの自分を振り返ることができましたか。	60%	30%	8%	2%
9	【実践意欲】 道徳の授業で学んだことや心に残ったことをこれからの生活で生かしていきたいと思いませんか。	71%	25%	2%	2%

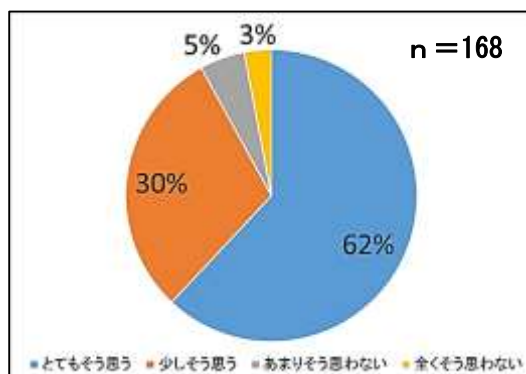


図22 学んだことについて

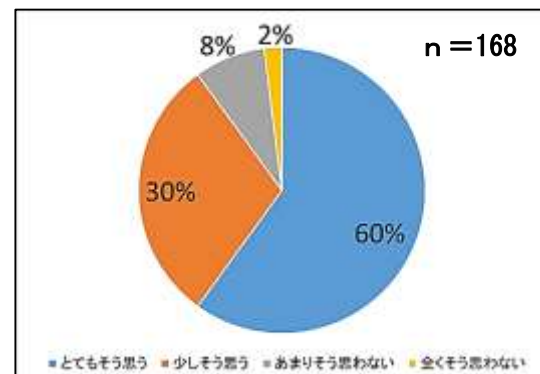


図23 自己の振り返りについて

この結果、「とてもそう思う」「少しそう思う」を合わせて 92%の児童生徒が授業の中でねらいとする道徳的価値について学んだことや心に残ったことがあったと答えていました(前頁図 22)。また、90%の児童生徒が道徳的価値に照らしてこれまでの自分を振り返ることができたと答えていました(前頁図 23)。さらに、96%の児童生徒が、授業で学んだことや心に残ったことをこれからの生活で生かしていきたいと答えており(図 24)、道徳的実践に向けての意欲をもつことができているといえます。

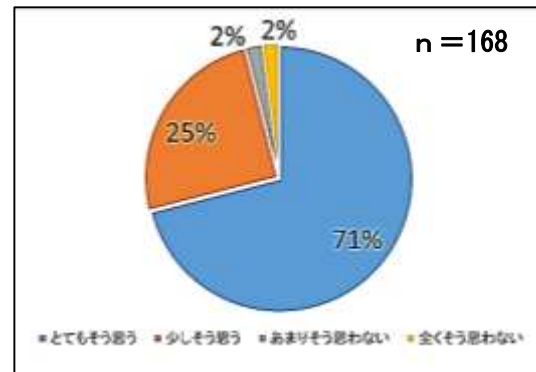


図 24 実践意欲について

このことから、児童生徒は、書く活動①、話し合いを通して感じたことや考えたことを、書く活動②において記述することができていました。このことから、書く活動①と書く活動②の内容を比較することで、自分の考えが強化されたり、変化したりしたことを感じることができていたといえます。

(カ) 視点Ⅲについて②

平成 28 年度は 5・11 月の道徳アンケート、ワークシート、振り返りシートにおける児童生徒の記述の変容を基に、「これからの自己を考えることができたか」について見取りました。

まず、事前に行った道徳アンケートでは、授業でねらいとする内容項目の質問において、以下のような回答が得られました(表 12)。

表 12 事前調査における児童生徒の記述

n = 180

*上段は 5 月、下段は 11 月の割合

対 象 内容項目	質 問 項 目	よく できている	だいたい できている	あまりでき ていない	全くでき ていない	
小学 2 年 C－(12)	はたらくことの大切さやよろこびを知り、みんなのためにすすんではたらいている。	48%	16%	26%	10%	
		44%	30%	23%	3 %	
小学 3 年 D－(18)	いのちは一番大事なものであることがわかり、いつも大切にしている。	79%	21%	0 %	0 %	
		91%	9 %	0 %	0 %	
小学 5 年 A－(2)	うそをついたりごまかしたりしないで、正直に明るいい心で生活している。	33%	50%	4 %	0 %	
		57%	30%	13%	0 %	
中学 1 年 B－(8)	友達と互いに理解し、励まし合い、高め合いながらよりよい関係を作ろうとしている。	41%	47%	12%	0 %	
		72%	28%	0 %	0 %	
中学 2 年 A－(4)	勉強や運動、仕事など自分でやろうと決めた目標に向かってねばり強く、くじけずに努力している。	38%	57%	5 %	5 %	
		52%	39%	10%	0 %	
中学 2 年 C－(15)	先生や学校にいる人のことを大切に思い、よりよい学校生活をつくるために、自分にできることをしている。	42%	45%	9 %	3 %	
		42%	39%	18%	0 %	
全 体 の 割 合		5 月	48%	40%	10%	2 %
		11 月	60%	29%	10%	1 %

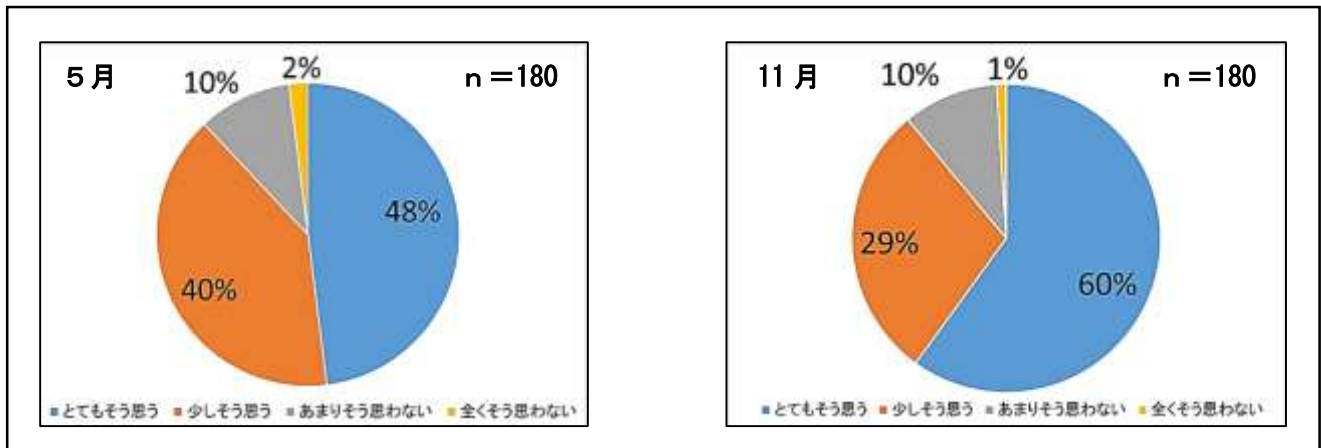


図 25 道徳的価値に対する自己評価

全体的な傾向を見ると、5月と11月の両方において、ねらいとする道徳的価値に対して普段の生活の中で、約90%の児童生徒が「よくできている」「だいたいできている」という意識をもっているといえます(図25)。「よくできている」と答えた児童生徒だけを見ると、48%(5月)から60%(11月)に増加しており、道徳的価値を意識しながら行動することができるようになってきていることが分かります。

授業においては、ペアやグループ、全体での話し合いの後に、話し合いを踏まえた自己の考えを記述する書く活動②を行いました。視点Ⅲについて、小学校3年生と中学校2年生の実践におけるワークシートの記述を分析し、それぞれの記述をどのように評価につなげていくことができるのか考えました。

視点Ⅲ 「これからの自己を考えることができたか」についてのワークシートの記述分析(小学校)

書く活動② (発問) 今より「せいっぱい生きる」ために自分にできることは何でしょうか。
全員の記述 (n=35)

○自分のことを考えた具体的な行動に関する記述

- ・ご飯をいっぱい食べて残さず食べる。
- ・ご飯をいっぱい食べる。早く寝る。運動をする。
- ・運動、遊び、勉強。
- ・遊びや手足を動かせる。大好きなお母さん、お父さんにも会える。自分でやりたいこともやれる。

○自分のことと周りの人達のことを考えた具体的な行動に関する記述

- ・しゃべったり、運動したり、ご飯を食べたりする。
- ・遊ぶ、しゃべる。
- ・遊んだり、しゃべったりできる。
- ・いつも元気に過ごすこと。食べ物も好き嫌いしないで健康に生きる。みんなのことを聞く。
- ・私は自分も人も励ますことができる。
- ・みんなのことも考えて、自分のことも考えて励ましてやったりして不安をなくしてやる。
- ・人の手伝いをする。誰かの役に立つ仕事を精一杯する。
- ・みんなを励まして元気に運動する。泣いていても笑顔になる。困難なことでも立ち向かっていく。
- ・みんなと仲良く遊び、元気にたくましく育つ。ぼくの電池はまだまだ切れない。もっともっと生きる。
- ・みんなを楽しませて、みんなを笑顔にして、困った時は助け合ってみんなと楽しく生きていく。

○自分の命を大切にしようとする気持ちが表れた記述

- ・命は電池みたいにそう簡単には取り換えられないから、自分の命を大切にしよう。
- ・あきらめずに精一杯生きること。命は一つしかないから無駄づかいしないこと。どんな病気にかかっても頑張って生きる。
- ・命は一つしかないから、自分の命は自分で守る。
- ・今ある時間を精一杯使って生きていく。
- ・命を大切に無駄にしないで生きていく。どんなことがあっても負けずに生きていく。
- ・命の電池を毎日つけておく。
- ・命を守るために生きる。

○周りの人の命を大切にしようとする気持ちが表れた記述

- ・悩んでいる人たちに声をかける。
- ・みんなを笑顔にしたり、困ったことがあったら助けたり、いろんなことができると思う。

○自分の命も周りの人の命も大切にしようとする気持ちが表れた記述

- ・自分の命も守って、みんなの命も守るために周りの人のことも気にしながら生活する。
- ・みんなと仲良くして精一杯生きる。命は守らないといけないと思った。
- ・みんなのために頑張り、命を大切にする。
- ・少しでも自分にやれることがあったら自分やみんなのために頑張ろう。
- ・人を助け、自分の命も守る。
- ・命を大切に、自分にできることを精一杯したい。由貴奈さんから教えてもらったことを無駄にしないようにしたい。
- ・命を大切に、みんなのことを考えて自分の行動をよくしたい。

○ 由貴奈さんから学んだことが表れた記述

- ・どんなに重い病気でもあきらめないで生きていく。
- ・由貴奈さんに命を無駄にしないこと、命は一つしかないから大切なことを学んだ。
- ・命は切れたらもう新しい命はないということ。
- ・命の電池が疲れたと言うまで精一杯生きること。
- ・由貴奈さんみたいに精一杯友達のことを大切にして、重い病気になったとしてもあきらめない。

ワークシートを見ると、全ての児童が「これからの自己」を意識しながら考えたことを記述しているのが分かります。これらの記述に対する評価の例を以下に挙げてみます。

ワークシートの記述を生活の中での道徳的実践へとつなげる手立て

【本時のねらい】 由貴奈さんの生き方にこめられた思いを感じることができ、周りの人のために今生きている自分にできることをしていこうとする態度を育てる。

○自分のことを考えた具体的な行動に関する記述についての評価

〈児童の記述〉ご飯をいっぱい食べて残さず食べる。等

《教師のコメント例》

→自分の命を守っていくには健康に気を付けて生活することも大切ですね。友達の命も守っていくために何ができるか考えてみよう。

【教師の記述による評価の例】

→命の授業では、食べ物を残さずに食べることが自分の命を守ることにつながると考えることができました。

○自分のことと周りの人達のことを考えた具体的な行動に関する記述についての評価

〈児童の記述〉みんなのことも考えて、自分のことも考えて励ましてやったりして不安をなくしてやる。等

《教師のコメント例》

→自分も大事にしながら、みんなのことを考えて励ましてやるということが由貴奈さんと同じ考えで素晴らしいですね。きっと〇〇さんに元気をもらえる友達が多くいると思います。

【教師の記述による評価の例】

→命についての授業では、「みんなのことを励ましたり不安をなくしたりしてあげたい」と記述し、自分と周りの人との関わりの大切さに気付き、実践しようという気持ちをもつことができていました。

○自分の命を大切にしようとする気持ちが表れた記述についての評価

〈児童の記述〉今ある時間を精一杯使って生きていく。等

《教師のコメント例》

→日野原さんの言葉が心に残りましたね。これからは自分はもちろん周りの人のためにも、今ある時間を精一杯使うためには何ができるか考えていけるといいですね。

【教師の記述による評価の例】

→命の授業の中で出てきた「命は自分が使える時間である」という言葉を心に留め、今ある時間を精一杯使って生きていきたいという思いをもつことができました。

○周りの人の命を大切にしようとする気持ちが表れた記述についての評価

〈児童の記述〉みんなを笑顔にしたり、困ったことがあったら助けたり、いろんなことができると思う。等

《教師のコメント例》

→みんなのために何ができるか考えて行動していこうとする〇〇さんの気持ちが伝わってきました。これからはたくさんの友達の笑顔をつくっていきましょう。

【教師の記述による評価の例】

→命についての授業では、周りの人の命の大切さに気付くことができ、みんなのために自分にできることを見つけながら生活していこうとする気持ちを高めることができました。

○自分の命も周りの人の命も大切にしようとする気持ちが表れた記述についての評価

〈児童の記述〉命を大切に、みんなのことを考えて自分の行動をよくしたい。等

《教師のコメント例》

→自分の命はもちろん、みんなの命も大切にしようとする気持ちが素晴らしいですね。みんなのために行動する〇〇さんの姿を見るのが楽しみです。

【教師の記述による評価の例】

→命の授業では、自分の命だけでなく周りの人の命も大切にしながら、自分の行動をよりよくしていこうとする気持ちをもつことができました。

○由貴奈さんから学んだことが表れた記述についての評価

〈児童の記述〉由貴奈さんみたいに精一杯友達のことを大切に、重い病気になったとしてもあきらめない。等

《教師のコメント例》

→〇〇さんも由貴奈さんように友達を思う気持ちを自分の周りの友達に伝えていけるといいですね。

【教師の記述による評価の例】

→命の授業では、友達の命を大切に主人公の思いを感じ取り、自分も同じように友達を大切にしたいという思いをもつことができました。

視点Ⅲ 「これからの自己を考えることができたか」についてのワークシートの記述分析(中学校)

書く活動② これまでの自分とこれからの自分

(発問) クラスの問題にこれからどう向き合いたいと思いますか。

全員の記述 (n=33)

○クラスの問題に対して向き合う

- 今日の授業のようなことがあったら、自分たちがやってきたことを見つめ直して、解決していきたいです。
- ちゃんと一人一人がいやなことをされたらどうするかを考えていかないといけないと思いました。
- 自分が思ったことはやっぱり言った方が良かったと思いました。
- 何か困ったことがあったときは、一人一人がしっかり考えて、きちんと向き合いたい。
- 私たちのクラスにもクラスの痛みがあるとしたら、自分の言動で良いクラスにできるようにしたいと思いました。これから、クラスの痛みにも向き合えるようになりたいです。
- もしクラスでいじめが起きていたら、声はそのときは掛けられないかもしれないけど、できるかぎりのことができたらいいなと思いました。
- 見ているだけでなく、意見を言う。
- 自分と向き合う。
- 自分もクラスの一員として考える(2人)。
- 駄目なものは、駄目だといえるようになりたい。

※ ワークシートの記述を以下のように分類しました。

- ① ☐ 授業で学んだ新しい考え、知識、価値観についての記述
 - ② ☐ 生徒の本音、弱みについての記述
 - ③ ☐ 具体性がない記述
 - ④ ☐ 気になる記述
- (次頁で、教師からのコメント記入例を示しています)

○クラスの問題の解決のために人と向き合う

- 仲良くしていく。
- いろんな人と向き合って解決できたらいいと思う。
- みんなと話し合って、一人一人の意見を聞いていきたい。
- いじめがあったらクラスみんなで考えて止めたいと思います。
- 人の気持ちを考えて行動して、その人とちゃんと向き合う。
- これから、いじめがなくなるようにみんなと話していく。
- 相手の気持ちも自分の気持ちも大切に、みんなと向き合っていこうと思いました。
- これからは、その人だけじゃなくて、自分や他の人たちのことを考えてみようと思いました。
- これから僕がクラスにいじめができたとかわかったら、なぜいじめになったのかを考えて、誰か一人を責めるのではなく、みんなでしっかり話し合いをしようと思います。

○加害者に向き合う

- 幸次さんみたいな人がこの学校には何人もいます。なので、僕はクラスや学校のいじめの問題が出たときは、その人に言いたいことを言うと思いました。
- 自分は見つければ必ず言うので、言ったあとに、もうしないほうがいいよと言います。
- クラスでのいじめ、けんかは止めることが大事だと思います。たとえ被害者がいじめられていないと思っていても、止めた方が良かったと思います。それが、いじめを減らすことにつながると思います。
- もしもいじめが起きるのなら、起きてからではなく、起きる前に注意しようと思った。
- 「声を掛けたら自分がいじめられるかもしれない」という考えをなくして、いじめを見たら積極的に「駄目だよ」と注意できるようになりたいです。
- 言おうと思えば言えるけど、1番の友達がいじめられていたら、すぐ言えると思います。
- 小6くらいから、いじめを見ても、何も言わずにスルーしていたけれど、これからは思いついて止めに入ろうと思った。
- このクラスでも、もしけんかやいじめがあれば、すぐ自分から止めに行き、その場で解決させて、いじめを無くそうと思います。
- いけないことをしている人がいたら、黙っていないで洋子さんのように注意する。

○被害者に向き合う

- いじめている人を見つければその人を止めることも大切だけど、いじめられている人と話すことも大切だと分かった。なので、それを生かしていこうと思います。
- 言われた人の気持ちを考えて発言しようと思いました。また、こうなる前に1人の人を作らないようにしたいです。
- 私は言って、洋子みたいになるのは嫌だし、あんまり関わりたいくないです。でも幸次に声を掛けたり、いじめてる人には言えないけど、いじめられている方には声を掛けられるから。自分なりに向き合っていきたい。
- 休み時間などに一人ぼっちの人がいたら、話し掛けて一人ぼっちを作らないようにする。

授業後に記入させた振り返りシートでは小学校、中学校の児童生徒を合わせて、以下のような回答が得られました(表13)。

表13 振り返りシートにおける児童生徒の記述

n=180

	質 問 項 目	とても そう思う	少し そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない
7	【学んだこと】 道徳の授業で学んだことや心に残ったことはありましたか。	62%	34%	3%	1%
8	【自己の振り返り】 道徳の授業でこれまでの自分を振り返ることができましたか。	55%	39%	5%	1%
9	【実践意欲】 道徳の授業で学んだことや心に残ったことをこれからの生活で生かしていきたいと思いませんか。	71%	26%	2%	1%

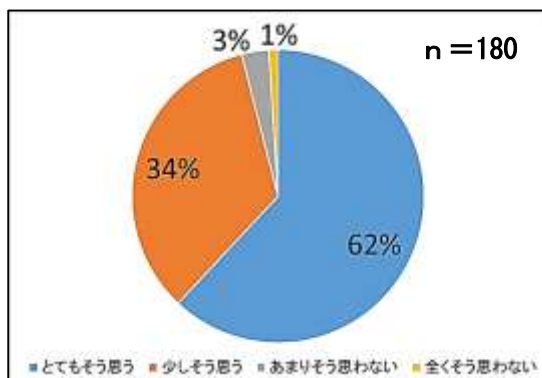


図26 学んだことについて

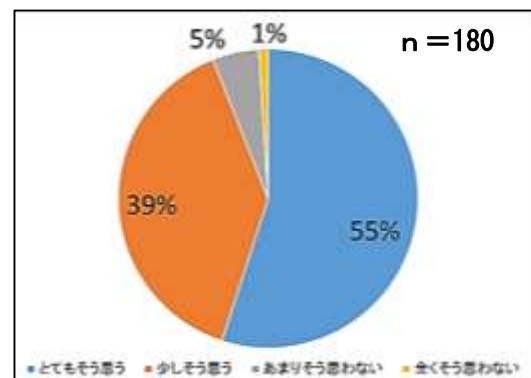


図27 自己の振り返りについて

この結果、「とてもそう思う」「少しそう思う」を合わせて 96%の児童生徒が授業の中でねらいとする道徳的価値について学んだことや心に残ったことがあったと答えていました(図26)。また、94%の児童生徒が道徳的価値に照らしてこれまでの自分を振り返ることができたと答えていました(図27)。さらに、97%の児童生徒が、授業で学んだことや心に残ったことをこれからの生活で生かしていきたいと答えており(図28)、道徳的実践に向けての意欲をもつことができているといえます。

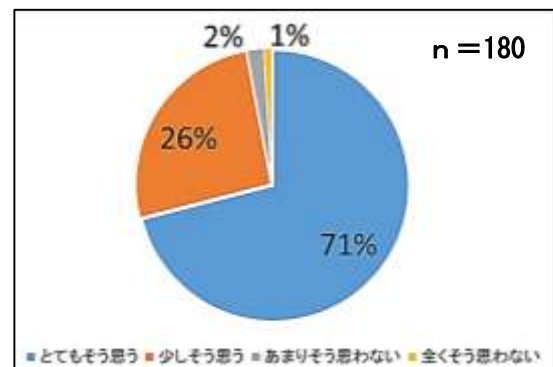


図28 実践意欲について

このことから、児童生徒は、書く活動①、話し合いを通して感じたことや考えたことを、書く活動②において記述することができており、これからの自己の生き方について考え、今後の生活の中での道徳的実践につなげていこうと考えていたことが分かりました。

最後に、道徳アンケート、ワークシート、振り返りシートを総合的に考察します。普段の生活では約90%の児童生徒が道徳的価値に対して意識しながら生活できていると答えていましたが、授業の中でねらいとする道徳的価値について、書いたり話したりする活動を通して、道徳的価値の大切さを感じ、それに照らし合わせたこれまでの自分について改めて考えることができていたといえます。その

ことで、道徳的価値を意識することができていなかった自分に気付き、その気付きを基にこれからの生き方の課題を考えることができ、さらにそれを自己の生き方として実現していこうとする思いをもつことができたと考えられます。